



10年の節目を迎えた水源の里シンポジウム



北部産業創造センター（仮称）の整備



新しく開校する東綾小・中一貫校

住んでよかった 住みたくなる そして 住み続けられる まちづくりを



所信を表明する山崎市長

平成29年度市政運営方針

平成29年度の条例や予算などを審議する市議会3月定例会が2月27日開会。山崎善也市長はこの日、新年度の市政運営方針を述べ、所信を表明しました。

夢ではない「綾部創生」

本市では、市制施行以来、人口減少や少子高齢化対策、過疎化の進む集落の再生などが大きな課題。こうした諸問題に対処すべく、第5次綾部市総合計画において、「定住・交流の促進」を市の最優先施策と位置付け、「医・職・住」と「教育」「情報発信」をキーワードに、「住んでよかった、そして住みたくなる」：ゆった



市内の中学校で行われるふるさと教育



新市民センター（仮称）完成予想図

りやすらぎの田園都市・綾部の実現のために全力を注いできました。また、綾部市まち・ひと・しごと創生総合戦略においても、人口減少に歯止めをかけるため、出生率の向上と転入者の増加により、持続的なまちづくりを可能とする目標を設定しました。人口の自然動態の増加は容易ではないものの、社会動態に関しては、近年の推移から市の施策によって変化させることが可能との思いを強くし

ました。地域医療の充実や雇用の確保、安全・安心を実現するための住環境の整備、子育てや教育環境の向上、そして何よりも「ふるさと教育」を充実することで本市に自信と誇りを抱く若者が増えるなら、各方面での「綾部創生」の実現も決して夢ではないという確信のもと、これまで進めてきた施策をさらに加速させて推進していきます。

早いもので、市政を担ってから、2期8年目となりました。これまでにまいてきた種が次第に「芽」吹き、着実に実実が実ってきていると実感しています。今後も現地・現場主義を基本に、オール綾部・チーム綾部で「綾部創生」の実現に向けて、引き続き、本市に吹く「良い風」をより確かな形とするため、スピード感をもって新たな施策にひるむことなく取り組みます。

持続的なまちづくりを推進

平成29年度当初予算は企業誘致などに伴う市税増収の後押しを受けながらソフト・ハード事業をバランスよく盛り込み、一方で国の有利な財源も活用しつつ、平成28年度の3月補正予算と一体的に編成を行いました。

具体的な施策として、北部産業創造センター（仮称）や新市民センター（仮称）などの整備を進める中で、街なかにおけるさらなる都市機能の集積と、自治会連合会単位の拠点を核とした地域クラスター戦略（※1）に沿って、それぞれの地域特性を生かした振興策を推進します。

また、DMO（※2）が主体的に取り組む「海の京都」「森の京都」事業を通じた観光・交流人口の増加への対応を図るとともに、定住促進施

（※1）地域クラスター戦略：地域ごとに特色あるまちづくりを進めることで、綾部市全体の活性化を図ろうとする戦略
（※2）DMO：観光地域づくりを行う組織



コミュニティナースの留学プロジェクトを実施

策の自治体間競争が激化する中で、水源の里事業の新たなステージへの展開や、住みたくなる綾部留学プロジェクト「コミュニティナース」の導入など、ほかの自治体に一歩先んじた定住施策にも果敢に取り組めます。

さらに、上林地域の消防救急体制の充実や西部地域の高齢者介護施設の開設など安全・安心の確保、ファミリー・サポートセンターの創設や物部保育園の整備など次世代に向けた子育て環境の充実、小中一貫校の整備など教育環境を充実させる諸施策などに積

極的に取り組み、将来にわたって住み続けられるまちづくりを推進します。加えて、リサイクル施設の整備など環境への対応や、障害者の権利擁護のための条例制定に向けた取り組み、また綾部の「強み」や「財」についてメディアを積極的に、戦略的に活用するなどして「綾部ブランド」の情報発信に努めます。

綾部を次世代へつなぐ

本市は京阪神とのアクセスが至便である一方、自然豊かで海や山にもほど近く、また病院やスポーツ・文化施設なども充実するなど、田舎暮らしと都市生活の両恩恵を享受できる素晴らしい環境。その市民性は穏やかで優しく、ふるさと愛に満ち溢れ、あやべ特別市民や各地のあやべ会など全国から支援を賜る心強い応援団も存在します。そんな熱い思いと期待が寄せられる本市を少しでも良い形で次の世代につないでいけるよう、手を携え、共に頑張っていきたいと思います。

連携強化で課題解決

複雑・多様化する地域課題に対しては、本市だけで対応することが困難になる中、市民との協働をはじめ、大学などの人的・知的資源の活用、民間事業者との連携や共同事業、さらには計30万人の人口を有する京都府北部5市2町を1つの都市圏としてポテンシャルを生かす地域連携都市圏形成の推進など、多様な「連携」による課題解決にも取り組んできました。

良い風を確かな形に